

年表（豊臣兄弟と敦賀）

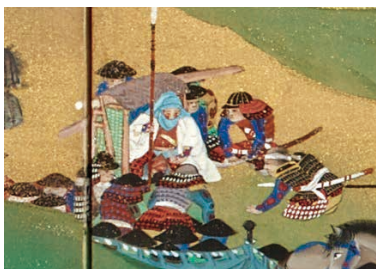
天文6年（1537）頃 兄・木下藤吉郎（後の秀吉）、尾張国に生まれる
 天文9年（1540） 弟・木下小一郎（後の秀長）誕生
 天文23年（1554）頃 藤吉郎、織田信長に仕え始める（後に小一郎も信長に仕える）
 元亀元年（1570） 織田信長による越前攻めで、金ヶ崎城・天筒山城と共に足壇城が落城
金ヶ崎の退き口
 姉川の戦い（現・滋賀県長浜市周辺）
 天正元年（1573） 秀吉、北近江三郡を与えられ初の城持大名になる
 天正5年（1577） 秀吉、中国攻め（播磨方面）で主力として活動
 天正10年（1582） 秀吉、本能寺の変後、山崎の戦いで明智光秀を討つ
 天正11年（1583） **敦賀城築城開始**
 賤ヶ岳の戦い。後に小一郎は、但馬・播磨2国を拝領
 小牧・長久手の戦い。この頃から「秀長」の名が使われるようになる
 天正12年（1584） 秀長、四国攻め後、功績により大和国を増増
 天正13年（1585） 紀伊・和泉など計100万石余を領有。「大和犬納言」と称される
 秀吉、越中攻めに際して敦賀にて蜂屋頼隆の歓待をうける
 天正17（文禄2年）（1589） 敦賀湊の整備進展 京都・大坂への物資供給の基盤形成）
 天正17年（1589） 大谷吉継が敦賀の領主（敦賀城主）に。城のある港湾都市へ再編が進む
 天正19年（1591） 豊臣秀長、死去
 文禄元年（1592） 文禄の役。敦賀は兵站拠点として機能
 慶長2年（1597） 吉継、秀吉の命により常宮神社に朝鮮鐘（国宝）を奉納したとされる
 慶長3年（1598） 豊臣秀吉、死去



賤ヶ岳合戦図屏風（長浜城歴史博物館蔵）
 柴田勝家が本陣を置いた玄蕃尾城跡が描かれています

豊臣兄弟と大谷吉継

豊臣兄弟と大谷吉継とのかかわりには吉継の母も関係しており、深い信頼関係で結ばれていたと考えられています。吉継の母は豊臣秀吉の正室（高台院）の侍女で「東殿」と呼ばれていました。秀吉が長浜城主の時代、「東殿」は吉継とともに秀吉夫妻に仕えていたようです。はじめ小姓として秀吉に仕えた吉継は、敦賀城主（5万石）にまで上り詰めます。その出世からは、母子2代にわたる豊臣兄弟との縁をより強固なものにした吉継の実力がうかがえます。



関ヶ原合戦図屏風（敦賀市立博物館蔵）
 大谷吉継陣付近

豊臣兄弟と吉継との絆は、豊臣兄弟亡き後も失われることはありませんでした。天下分け目の戦いとなった関ヶ原の戦いでは、石田三成に味方して西軍につきましたが、小早川秀秋の寝返りにより大谷軍は全滅。吉継は自害して果えました。最後まで豊臣への忠義を貫いた吉継の生き様は、今もなお多くの人の心をとらえています。

ゆかりの地マップ 豊臣兄弟と敦賀

令和8年の大河ドラマは
 豊臣秀吉の弟 豊臣秀長が主人公の「豊臣兄弟！」。
 そこで敦賀市とその周辺地域の
 豊臣兄弟ゆかりの地マップを作成しました。
 この機会にぜひゆかりの地を巡ってください。

豊臣秀吉像
 （敦賀市立博物館蔵）

豊臣秀長像
 （大和郡山市 春岳院蔵）

敦賀市立博物館



重要文化財・旧大和田銀行本店本館を利用した博物館。平成29年（2017）には国の重要文化財（建造物）に指定されています。敦賀の歴史についての展示や企画展を実施しています。

ホームページ



◆敦賀市相生町7-8
 ☎0770-25-7033
 開館時間／9:00～17:00（受付は16:30まで）
 入館料／個人300円、20名以上団体250円
 休館日／毎週月曜日（祝日の場合は翌平日）、年末年始等
 みなとつるが山車会館との共通入館料／個人500円、団体400円



ホームページ



◆敦賀市相生町7-6
 ☎0770-21-5570
 開館時間／9:00～17:00（受付は16:30まで）
 入館料／個人300円、20名以上団体250円
 休館日／毎週月曜日（祝日の場合は翌平日）、年末年始等
 敦賀市立博物館との共通入館料／個人500円、団体400円

敦賀までのアクセス

🚗 自家用車（敦賀ICまで）

名古屋 — 約1時間40分（130km）
 大阪 — 約2時間（170km）
 金沢 — 約1時間50分（140km）

🚆 電車（JR敦賀駅まで）

東京 — 約3時間（JR北陸新幹線／東海道本線・北陸本線）
 名古屋 — 約1時間（JR東海道本線・北陸本線）
 大阪 — 約1時間20分（JR湖西線）
 金沢 — 約50分（JR北陸新幹線）



13 小谷城跡(おだにじょうあと)

天正元年(1573)小谷城の戦いで織田軍が浅井氏を滅ぼし、豊臣兄弟も活躍しました。近くに小谷城戦国歴史資料館があり、当時の様子を伝えています。

◆長浜市小谷郡上町、湖北町伊部
☎0749-78-2320(小谷城戦国歴史資料館)



12 賤ヶ岳古戦場(しずがたけこせんじょう)

天正11年(1583)、豊臣兄弟と柴田勝家が対決した「賤ヶ岳の戦い」の戦場跡。この戦いに羽柴軍は勝利し、秀吉は名実ともに織田政権の後継者となりました。現在はリフトが整備され、山頂まで登ることができます。近くには羽柴軍の本陣で、秀吉が築いた田上山城もあります。

◆長浜市木之本町大音 / 木之本町飯浦
☎0749-53-2650(長浜観光協会)



3 妙頭寺(みょうげんじ)

織田軍は天筒山城、金ヶ崎城での戦いの後、一乗谷を攻めるための本陣を妙頭寺の内庭に置き、豊臣兄弟も宿泊したといわれています。

◆敦賀市元町9-18 ☎0770-22-1342



4 氣比神宮(けひじんぐう)

大宝2年(702)に建立された北陸道の総鎮守で、中世まで港を実質支配していました。織田軍の朝倉氏攻めに抵抗して焼かれ、慶長19年(1614)に復興されました。9月の敦賀まつりでは戦国時代の武者人形を乗せた山車が6基、大鳥居の前に並びます。

◆敦賀市曙町11-68 ☎0770-22-0794



公式HP

8 常宮神社(じょうぐうじんしゃ)

古くは氣比神宮の奥の院であり、航海安全の崇敬厚い古社。敦賀城主大谷吉継が秀吉の命で奉納したとされる国宝「朝鮮鐘」が残されています。また、神功皇后が安産祈願したとの伝承から、安産の神様としても崇められています。

◆敦賀市常宮13-16 ☎0770-26-1040



10 足壇城跡(ひきだじょうあと)

朝倉氏に仕えた在郷武士、疋田氏の居城。越前最南端の防御拠点としての役割がありましたが、姉川の戦いに引き続き、刀根坂の戦いでも朝倉軍は大敗し、そのまま織田軍により攻略されました。現在も主郭の石垣や壕が残っています。

◆敦賀市疋田43-1-3



11 玄蕃尾城跡(げんぱおじょうあと)

賤ヶ岳の戦いの際、柴田勝家が本陣を置きました。土塁や空堀、馬出などの遺構が当時のまま良好に保存され、平成11年(1999)に国指定史跡に、平成29年(2017)に「続日本100名城」に選定されています。

◆敦賀市刀根(中尾山)
長浜市余呉町柳ヶ瀬



玄蕃尾城案内

豊臣兄弟 ゆかりの地

北陸の玄関口として時の政権から重要視された敦賀の地には豊臣兄弟ゆかりの地が数多くあります。また、豊臣への忠義を貫いた義の武将大谷吉継は、敦賀城主としての確かな足あとを残しました。



1 金ヶ崎城跡(かねがさきじょうあと)

豊臣兄弟を含む織田軍は朝倉氏を攻めるため、天筒山城、金ヶ崎城を攻め落としましたが、浅井長政の裏切りにより撤退を余儀なくされました。この撤退戦が金ヶ崎の退き口と言われ、その殿(しんがり)を務めた秀吉は、信長から厚く信頼されるようになりました。そばにある金崎宮は難関突破、恋の宮と言われ、桜の季節には花換えまつりが開催されます。

◆敦賀市金ヶ崎町1-4
☎0770-22-0938(金崎宮社務所)



金崎宮HP



2 敦賀城案内碑(つるがじょうあんないひ)

敦賀城は秀吉の有力家臣である大谷吉継によって完成したといわれ、廃城となった後は奉行所、県庁舎(旧・敦賀県)、警察署、裁判所・病院、尋常小学校(現西小学校)と変遷しました。西小学校前にあるこの案内碑は、敦賀城が確かに存在したことを今に伝えています。

◆敦賀市結城町8(敦賀市立西小学校校門横)



7 西福寺(さいふくじ)

応安元年(1368)良如上人が開山した北陸の古刹。応仁の乱を避けて京から移された絵画や書等、所蔵される多くの国宝・重要文化財の中には朝倉宗滴、織田信長、大谷吉継らの書状も。極楽浄土を表したとされる国名勝指定 書院庭園は池・石・樹木が巧みに配置され散策必須。

◆敦賀市原13-7
☎0770-22-3926



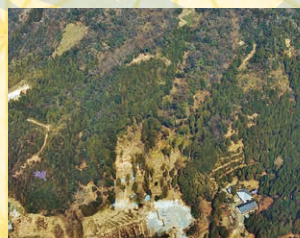
公式HP

9 佐柿国吉城跡(さがきくによしじょうあと)

元亀元年(1570)、朝倉氏攻めのため織田軍は佐柿国吉城に入り、その後天筒山城・金ヶ崎城にむかいました。平成29年(2017)に「続日本100名城」に選定され、ふもとは国吉城の歴史を伝える若狹国吉城歴史資料館があります。

◆三方郡美浜町佐柿

☎0770-32-0050(若狹国吉城歴史資料館)



16 豊公園(ほうこうえん)【長浜城跡】

浅井氏を滅ぼした後、秀吉はこの地を長浜と名付け、長浜城を築城しました。公園内には天守閣を模した長浜城歴史博物館があり、豊臣兄弟をはじめ長浜市の歴史について伝えています。

◆長浜市公園町1325
☎0749-63-4611(長浜城歴史博物館)



長浜城歴史博物館HP



18 佐和山城跡(さわやまじょうあと)

敦賀城主大谷吉継の盟友とされる石田三成の居城であり、関ヶ原の戦いの際に落城しました。わずかに遺構を残すのみですが、現在はハイキングコースとなっています。

◆彦根市古沢町
☎0749-30-6120(彦根市観光交流課)



17 彦根城(ひこねじょう)

関ヶ原の戦いで活躍した井伊直政の子、直継・直孝により築城されました。中でも「天秤櫓」は長浜城から移築されたといわれています。昭和27年(1952)に天守、附櫓および多聞櫓が国宝に指定されました。

◆彦根市金亀町1-1
☎0749-22-2742



公式HP



お市の方は、両端をひもで結んだ小豆袋を兄の信長に届け、浅井氏による挟み撃ちを知らせたとされています。金崎宮ではこの小豆袋にちなんだ「難関突破守」や、「信長、秀吉、家康勢揃いの地」と記載されたオリジナル御城印を購入できます。